

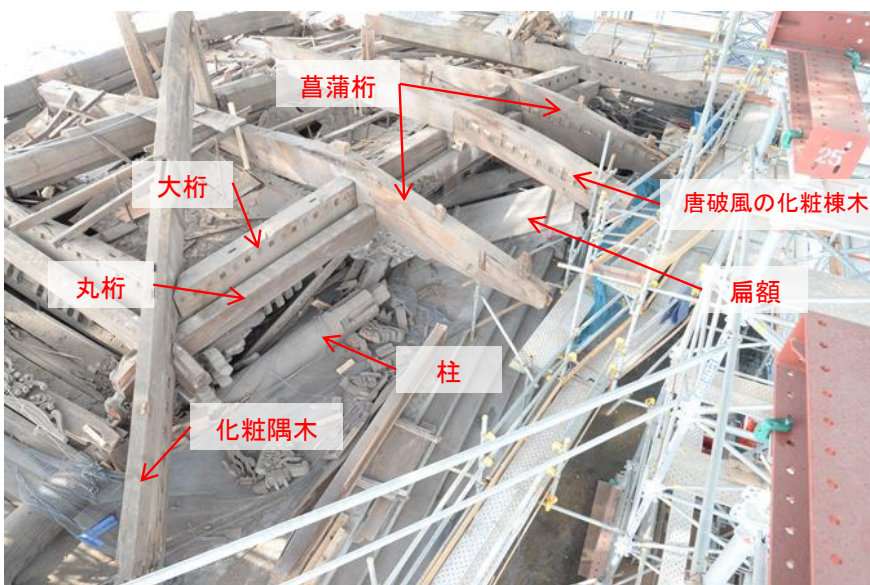
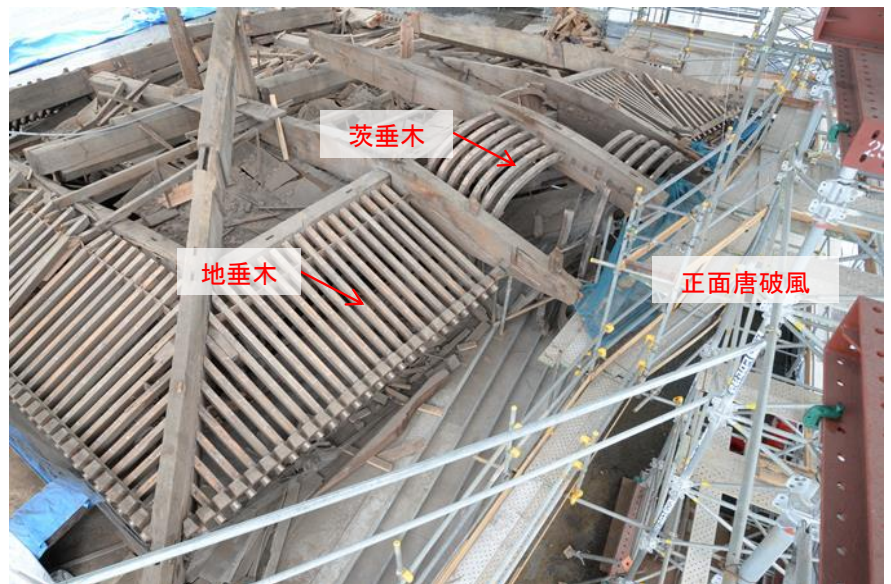
楼門
1階屋根骨組解体①

今月の楼門解体工事は、軒下から見上げた時に見える部材を、まず解体しました。軒廻りは、地垂木・飛檐垂木と呼ばれる棒状の部材や、木負・茅負・裏甲と呼ばれる横材、垂木の間をふさぐ化粧裏板などによって構成されています。写真は、茅負、裏甲、飛檐垂木の化粧裏板を解体した後のものです。

楼門
1階屋根骨組解体②

飛檐垂木と地垂木の化粧裏板を解体しました。

右写真に示したように、正面唐破風の垂木は茨垂木(いばらだるき)という名称です。下写真赤丸で示したとがっている部分を「茨」と呼び、茨のある垂木で茨垂木と呼ばれています。



楼門
1階屋根骨組解体③

木負と地垂木、茨垂木を解体しました。屋根の下の柱などが見えてきました。

唐破風の桁は菖蒲桁(しょうぶげた)と呼ばれます。「菖蒲」の文字については、廡(軒・庇の意)にある化粧桁ということで「粧廡桁」となったところに、同じ音の「菖蒲」をあてたという一説もあるようです。

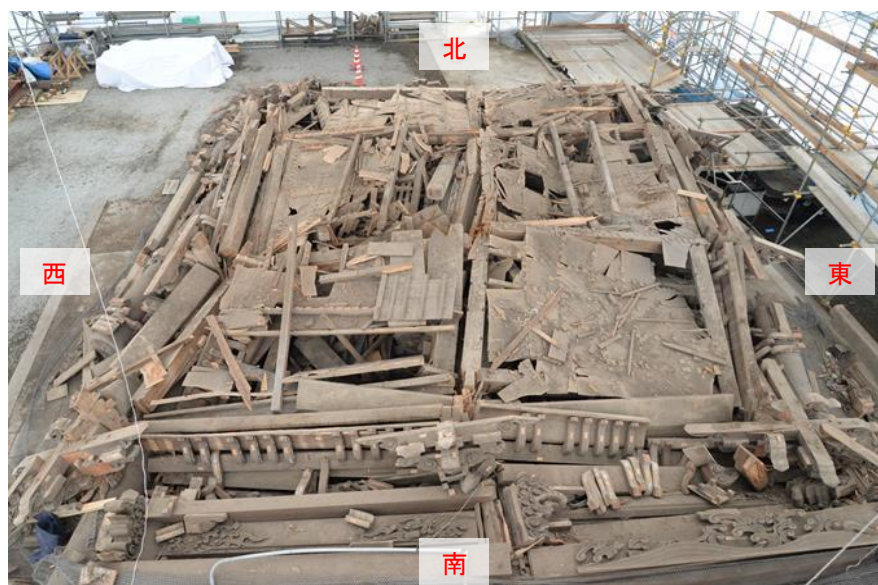


楼門
1階屋根骨組解体④

次に、梁や桁・化粧隅木などの大きな材を、クレーン車を使って解体を行いました。

楼門
1階屋根骨組解体完了

1階屋根より下の状況です。天井は板が割れ、骨組みが崩れていました。その下の組物もところどころ外れ、柱が東北東に倒れています。



楼門
1階解体

屋根の解体が完了し、いよいよ屋根より下の部分の解体です。まず、天井の解体から始めています。



**楼門
1階屋根解体中**

8月で報告した時の状態です。

**楼門
1階屋根解体完了**

クレーン車を使い、大きな材を解体した後の状態です。



**楼門
1階天井解体中**

天井板・天井縁と呼ばれる部材を解体した後の状態です。





**神幸門
足場設置**

補修が完了した部材の復旧や
現地修繕を行うため、足場を設
置しました。

**神幸門
破損した組物 解体前**

神幸門も還御門と同じく、親柱
と呼ばれる中央の柱の上にな
る組物が、震災によって破損し
ました。
取り外して修理を施し、元の状
態に復旧します。



**神幸門
破損した組物 復旧完了**

修理した部材を元の状態に戻
し、復旧が完了しました。